

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記号)】			
事業所番号	0492600036		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス松島 ユニット名 ちどり		
所在地	宮城県宮城郡松島町磯崎字長田80番222		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	平成26年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな閑静な住宅地の中にあり、広い中庭を使って夏祭りや芋煮会を行ない利用者様とご家族様や地域の方々と共に楽しみいただいています。畑の野菜を収穫し、シソ巻きや干し柿、イチジクの甘露煮などを一緒に作り季節を感じながら食の楽しみを味わっていただいています。又、名勝松島の観光地へのドライブや外食を企画し、気分転換を図り楽しみのある生活を提供しております。震災地域でもあり、毎月避難訓練を行ない、3月と9月には消防署の指導によりAEDや心肺蘇生法、消火器訓練などを指導頂き、職員一同防災の意識を常に高く持っています。町内会に入り、地区の定期総会や地域の避難訓練、清掃活動、稲荷大祭等地域行事に積極的に参加し、地域との連携を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは松島町の高城駅の東側、磯崎の閑静な地域にグループホーム(2ユニット)を3年前に開所、名勝松島という自然環境に恵まれた地に位置している。ホームの中庭で利用者と職員がいっしょに野菜を作り、成長を楽しんでいる。収穫した野菜は、食材に使用している。近くにコンビニがあり買い物に便利である。また長年その地域で生活している人が多く、近所の方も気軽に立ち寄るようになった。職員は事業所の理念をいつも心掛け、毎日朝のミーティングで唱和し日々のケアに活かしている。問題が起きた時には、理念に立ち返り利用者一人ひとりの思いを大切に解決している。催事がある場合は近隣に声掛けし地域交流を深めている。市職員は運営推進会議に参加し外部評価時に同行するなど連携している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名：グループホームコスモス松島）「ユニット名：ちどり」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で運営理念を唱和して実践につなげている。ユニットの介護理念はホールに掲示し常に立ち返りながら介護サービスの改善、質の向上に努めている。	利用者主体の生活が出来るよう理念に基づき実践している。毎朝朝礼で運営理念を唱和し共有している。理念はユニット入口に掲示、常に立ち返りながらサービスの改善、向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2か月に1回運営推進会議を開催し、地域の方々にご参加頂き意見交換している。又、町内会の一員として定期総会や地域の防災訓練に参加したり、地域の稲荷神社の子供神輿の応援を行なう等利用者様も一緒に交流している。	町内会に加入、町内会主催のお祭り、地域の防災訓練、清掃等に参加、交流を深めている。松島町の松島町はいかい高齢者SOSネットワーク協力団体に登録し、事業者の夏祭り、ボランティアによる太鼓、三味線の演奏会に近所の方を招き交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りやボランティア来所時等の施設行事や、運営推進会議に参加して頂き、地域の皆様に認知症についてご理解いただけるよう働きかけている。又、松島町 sosネットワークの協力団体として地域高齢者の安全に協力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の様子や状況、待機情報や事故の報告等を行ない運営推進会議で話しあった内容やご意見を職員間で共有し、ケアの質の向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、社協、地域包括職員、利用者、家族、職員の参加で開催する。また、年に1回運営推進会議に合わせ、消防署の立会で避難訓練を行い、訓練の状況を確認し、助言・指導がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には欠かさずご参加頂き、事業所の実情や日頃の状況をお伝えし、ご意見、ご指導を頂いている。 又、町のケア会議に参加し、協力関係を築いている。	町担当者は運営推進会議に参加し、情報交換をしている。困難事例のケアの方針についてアドバイスを受けたり、入居状況について相談するなど協力関係が構築されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設のマニュアルや外部での研修を基に勉強会を行ない、身体拘束をしないケアに努めている。 玄関は夜間のみ安全の為に施錠している。	身体拘束はしないケアを実践している。外出傾向を把握し、声掛けなどで安心し落ち着くようにしている。ユニット間の行き来で気分転換が出来るように配慮している。玄関の施錠は20:30～5:30の夜間のみ行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部での研修会、勉強会において高齢者虐待防止について理解を深めると共に、日々の申し送りにおいて一人ひとりの身体状況を把握し、職員間で声掛けし合い、防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設入居者様が財産管理サポートセンターを利用している事もあり、職員が制度についての理解を深められるように研修等行ない学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は入居者様やご家族様へ契約書や重要事項の内容に沿って分かり易く、一方的にならないように説明を行ない、理解と同意の上で契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で利用者様の要望や意見をくみとり、ご家族様の面会時に伝え気兼ねなく話して頂ける関係作りに努めている。又、運営推進会議の記録を常に玄関に置いて閲覧して頂き、意見箱を設け、随時投稿して頂けるようにしている。	玄関入り口に意見箱を設置している。近隣の利用者が多く、家族の面会も多い。来所時に利用者の状況報告し運営に関する要望を聞いている。家族会はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の定例会において各係の活動報告を行ない、入居者様の満足度や改善点について意見を出し合い、より良い環境作りを目指している。	職員は毎月の定例会が運営に関する提案をする機会となっている。その際、各係が運営の改善について検討もしている。管理者の判断のみならず、必要があれば本部に相談する体制となっている。ゆとりある環境作りを目指しシフトを改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度の利用や各研修への参加を促し、やりがいや向上心を持って仕事ができるよう職場環境の整備に努めている。又、定期的な面談を行ない公平な評価を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社1ヶ月はわかば研修を行ない、先輩職員や管理者、リーダーの指導やアドバイスを受けている。又、均等に外部研修に参加する機会を設け、職員の経験や能力に合った研修に参加し、内部研修でも伝達し、学び合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加や外部研修を通じて、相互関係を構築しサービスの質の向上を図っている。社内の管理者研修で他事業所と勉強会や情報交換を行ったり、スタッフの交換研修や応援体制を作り、相互訪問の機会を設けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の実態調査の際に、ご本人様と話し、安心信頼を得られる関係作りに努めている。入所後は多くのコミュニケーションを図り、困っている事や不安をお聞きし、カンファレンスや申し送り等話し合いの場を設け対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査による聞き取りにおいて、ご家族様が抱える不安や要望の一つひとつを傾聴し、入居後もご家族様と連携をとりながら、カンファレンスや申し送りにおいて情報を共有し適切なケアができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査等により入居者様やご家族様からの意見や要望をお聞きし、入居検討会を2回開催し必要な支援の検討を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を活用しながら、ご自身でできる事はして頂き、カーテン締めや食器拭き、縫物、洗濯たたみ等生活の中で役割を持ちながら共に過ごし支え合える関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊や通院にはご家族様の協力も頂いている。又、面会時には日頃の様子をお伝えし、利用者様とご家族の良好な関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人等、馴染みの方が施設に気兼ねなく訪問し、過ごして頂けるよう努めている。馴染みの人や場所について話題を提供したり、名勝松島で長年過ごし誇りに思われている方々に観光地や商店を訪れる機会を設けている。	利用者の多くが地元のため顔馴染みの関係であり、職員も地元の方が多い。買い物は町の古くからある馴染みの店に行く。また面会に訪れやすい雰囲気作りを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中の生活の様子を把握し、その時その時に合った対応を心掛け、良好な関係が築けるよう努めている。時には別ユニットに行って一緒にゲームや歌を歌って楽しむ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設への入居や入院による退去の後にも面会に伺い、ご家族様から感謝の思いを伝えられている。亡くなられた際にはお悔やみに伺い、退所後もいつでも相談頂けるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをとる機会を多く設け、利用者様やご家族様の要望を把握し、利用者様本位の生活が実現できるよう努めている。	利用者ごとに担当者を決め、コミュニケーションを密にとり、思いや意向を把握する。利用者が要望を出せない時は、日常生活で出来ることを基に、また家族の要望を取り入れ検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の段階において生活歴や生活の把握に努めると共に入居後もご家族様や本人様の話をもとにして職員への周知を行ないその方らしい生活が送れるよう検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から一人ひとりの心身状態の把握に努め毎月のカンファレンスにおいて対応方法やサービスのあり方について検討し、サービスの質の向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様ごとに担当者を決め身体状況の変化や対応方法等カンファレンスにおいて各職員から意見を求めている。プラン変更の必要がある時は、職員やご家族様と相談し介護計画に反映している。	毎月カンファレンスやモニタリングを行い、3ヶ月に1度ケアプランを見直している。また「今日の私」という支援経過を毎日作成、利用者の状況、心身、体調の状況等を記録し、ケアプランの変更の判断材料としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画された内容を実践できたかを個別の記録(今日の私)とサービス内容確認表に記入して現状把握に努め、情報を共有しながら見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じ、買い物支援や散歩、体調不良時の薬の調整の為、ご家族様・本人様に日頃の体調を良く知っている職員が通院同行したりする等、変化あるニーズに柔軟、かつ適切な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ほとんどの利用者様が町内や近隣の方なので、日々の会話や生活の中で地域資源を活用している。ご家族様の協力のもと外泊や外出の機会を設けたり、近所の子供神輿や松島マラソンを応援し、楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様、ご家族様と相談し決めている。往診や受診時には、主治医に相談しながら指示やアドバイスを頂き、連携を図っている。	希望のかかりつけ医を受診し、定期受診及び精神科の通院時は職員が付き添う。家族が付添う場合は、利用者の支援経過表を作成し医師へ情報提供している。医師への質問事項も書き入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期往診や定期受診時に、日頃の様子を伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。受診の際には医師への申し送り事項や医師からの指示を書面に残し、職員間で共有して共通の対応を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には病院側へ情報の提供を行なっている。入院中の経過についてはお見舞いに伺い、関係者から状況の把握をしている。又、退院時にはサマリーを頂き、情報交換を相互に行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書により事業所として出来ることを伝えている。ご本人様、ご家族様の意向を尊重し、その方らしい終末期が迎えられよう、引き続き話し合っていくことを説明している。	ホーム内で看取りの実績はない。重度化した場合、医師が家族と話し合い、今後の対応を相談し計画を立てることとなっている。医師との連携は密に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会に緊急時対応マニュアルの確認を行なうと共に、松島消防署と連携して、心肺蘇生法やAEDの取扱についての指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練の実施により、災害時の避難方法や避難場所の確認を行ない全職員が対応できるように取り組んでいる。又、近隣の協力者には、緊急連絡網に載せて、災害時の応援をお願いしている。	毎月避難訓練を実施している。近隣の協力者の連絡先を緊急連絡網に掲載し、災害発生時の応援を依頼できるようになっている。3月、9月の訓練には通報・AED・施設外への誘導の訓練を消防署の指導のもと行っている。	災害時の避難には、地域住民の協力が欠かせない。協力体制をより強めるために、避難訓練への住民の参加の働きかけを強めていくことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの仕方や対応方法について一人ひとりの人格を尊重するよう心がけている。排泄、入浴時は特にプライバシーを損ねないように、スタッフ間で話し合い利用者様が不快な思いをしない様に心がけている。	家族に聞いて呼び方を決めている。基本苗字で呼んでいるが、顔見知りの方達が多く、昔からの愛称を使ったりしている。排泄介助はさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが選択しやすいような声掛けを行ない、表情やしぐさから思いを汲み取り、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常にコミュニケーションを図り、一人ひとりの望まれる過ごし方をして頂いている。脳トレをしたい方、編み物をしたい方、日向ぼっこをしたい方等希望を汲み取って実現できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際の衣服の自己決定や化粧を行なう機会を設ける等、おしゃれができるように支援している。定期的に訪問理美容を依頼し、好みの髪型にカットしたり、パーマ、毛染めなどをされている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力や役割に応じて下ごしらえや味付け、盛り付け、食器拭き等を手伝って頂いている。食べることは皆さん大好きなので、畑から収穫したシソの葉を摘み、シソ巻き味噌をつくったり、干し柿を作り楽しく季節を味わって頂いている。	会社の栄養士が献立を作成し、3ヶ月ごとに個々の栄養指導書を作成している。献立表を基に当番職員が調理し提供している。利用者も自分でできることを役割として手伝っている。誕生会は職員の手作りケーキを提供し楽しくお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成したメニューを基に食事を提供している。咀嚼や嚥下状態を踏まえた食事形態を選択し、水分が不足される方においてはジュース等の嗜好物をご家族様との話し合いのもとで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行ない、不十分と思われる方への支援を行なっている。義歯は夕食後洗浄剤にて消毒を行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	支援経過記録を基に、ご本人様の有する能力を把握し、可能な限り自立に向けた排泄を検討すると共に、排泄パターンや習慣を把握し本人に合わせた対応を行なっている。	日中は声掛けしトイレ誘導を行っている。毎日排泄の記録をし、排尿の多い人は記録を確認しながら夜間起こし排泄の誘導をするなど配慮している。本人に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	咀嚼や嚥下能力に合わせた食事を提供し、水分摂取に努めている。又、散歩や体操など体を動かすことに努めている。必要時は医師に相談し、下剤の処方も頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を作成し定期的な入浴の機会を設けている。希望があった際には出来るだけ希望に添えるよう対応している。入浴拒否の強い方には、時間をおいたり毎日声掛けして入浴の機会を増やすよう努めている。	毎日の入浴希望にも応じるよう努めている(10:00～14:00)。食後を避け、希望の時間に対応し、湯はその都度入れ替える。季節に合わせた入浴剤を使用している。入浴したくない人にはスタッフを変えたり、時間を変えたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の心身の状態を把握し、希望があった際には適時休息をとり、生活のリズムを整えるよう努めている。部屋の温度湿度に注意し、夜間の熟睡につながるよう、入床時間の調整も個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際に使用目的や副作用等、起こりうるリスクの周知を行なうと共に、服薬までに4回のチェックを行ない誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、カーテン締め等役割を持ち、張り合いのある生活の支援を行なっている。又、庭の畑の野菜を収穫をしたり、天気の良い日は中庭で日光浴をする等、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉等季節に合わせたドライブや外食の機会を設けている。ご家族様の協力もあり、月に何度か自宅へ外泊されたり、家族と外食される方もいる。体調と天気の良い日を見て、町内の店や観光地をめぐる楽しんで頂いている。	外出したい希望に合わせて、墓参り、自宅、買い物など、個別に対応している。毎月、花見、アジサイ見学、紅葉狩などの外出計画がある。外食は車いすの対応ができる店を選んでいくようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預りし、希望される方にはご家族様のご了解を得て買い物と一緒にいく支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からはがきを預り、適時やり取りができるように努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた壁面作成や行事の写真や利用者様の作品を展示し、居心地の良い空間作りに努めている。温度、湿度を管理調整し、時間をみて空気の入れ替えを行なっている。共用部分は昼夜共に清掃の時間を設け、心地よく暮らせる環境作りをしている。	毎朝換気し、温・湿度の管理を行っている。日差しの強い日はカーテンを閉めるなど調整している。庭でとれた柿を軒先につるし季節を感じてもらうなど、季節ごとの食材を収穫し楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座りテレビを見たり、日向ぼっこをしながら外を眺めたり、一人ひとりに合わせた居場所作りをしている。小上がりの畳の場所は、食事をするフロアとも違い、落ち着いた空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた馴染みの家具や家族の写真、ご本人様の作品等を飾り、自分の部屋として居心地良く過ごせるよう配慮している。	本人の馴染みの筆筒や鏡台を持ち込んでいる。本人が収納しやすいように筆筒にはラベルを張るなど工夫している。また自分で作った作品や写真を貼っていることでその時を思い出し話題にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置し歩行できる方は、安全に自立して移動できるようにしている。トイレにはその場所が分かりやすいよう、看板を掲げている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	0492600036		
法人名	コスモスケア株式会社		
事業所名	グループホームコスモス松島 ユニット名 かもめ		
所在地	宮城県宮城郡松島町磯崎字長田80番222		
自己評価作成日	平成26年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階
訪問調査日	平成26年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

在宅での個々のタイムテーブルに近い環境で過ごして頂ける様に、朝食など自力で起床できる方については、せかすことなくゆったりとした一日のスタートになる様に配慮しています。個々のタイムテーブルを尊重しながらも他者との関係性の構築を図り、施設全体で行なう行事・ユニット毎に行なう行事・余暇の時間の共有など「明るく温かく安全に」を合言葉に、日々過ごして頂ける様に努めています。生活に必要な物を一緒に買いに出かけたり、近くの海まで散歩したり、外出の機会を設け地域の方々と自然に馴染んで頂けるような支援を行なっています。事業所全体の行事に加え、生活カレンダーを参考に、季節に合わせたおやつや食事を提供し季節を感じながら過ごして頂けるように工夫しています。又、毎月、認知症介護について勉強会や事例検討を行ない、職員一同適切な対応が出来るように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは松島町の高城駅の東側、磯崎の閑静な地域にグループホーム(2ユニット)を3年前に開所、名勝松島という自然環境に恵まれた地に位置している。ホームの中庭で利用者と職員がいっしょに野菜を作り、成長を楽しんでいる。収穫した野菜は、食材に使用している。近くにコンビニがあり買い物に便利である。また長年その地域で生活している人が多く、近所の方も気軽に立ち寄りやすくなった。職員は事業所の理念をいつも心掛け、毎日朝のミーティングで唱和し日々のケアに活かしている。問題が起きた時には、理念に立ち返り利用者一人ひとりの思いを大切に解決している。催事がある場合は近隣に声掛けし地域交流を深めている。市職員は運営推進会議に参加し外部評価時に同行するなど連携している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームコスモス松島 ）「ユニット名 かもめ 」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で運営理念を唱和して実践につなげている。ユニットの介護理念はホールに掲示し常に立ち返りながら介護サービスの改善、質の向上に努めている。	利用者主体の生活が出来るよう理念に基づき実践している。毎朝朝礼で運営理念を唱和し共有している。理念はユニット入口に掲示、常に立ち返りながらサービスの改善、向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、地域の方々にご参加頂き意見交換している。又、施設の行事に近所の方を招いたり、地域の防災訓練や地域の清掃活動に参加している。	町内会に加入、町内会主催のお祭り、地域の防災訓練、清掃等に参加、交流を深めている。松島町の松島町はいかい高齢者SOSネットワーク協力団体に登録し、事業者の夏祭り、ボランティアによる太鼓、三味線の演奏会に近所の方を招き交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に施設行事や運営推進会議を通じ、認知症に係る事柄を伝えていけるよう努力している。又、松島町sosネットワークの協力団体として地域高齢者の安全に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の日々の様子や状況、待機情報や事故の報告等を行ない、会議で話し合われた内容やご意見を職員間で共有し、ケアの質の向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、社協、地域包括職員、利用者、家族、職員の参加で開催する。また、年に1回運営推進会議に合わせ、消防署の立会で避難訓練を行い、訓練の状況を確認し、助言・指導がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を頂くと共に、事業所の実情や日頃の状況をお伝えし、ご意見、ご指導を頂いている。又、町の地域ケア会議に参加する等、協力関係を築いている	町担当者は運営推進会議に参加し、情報交換をしている。困難事例のケアの方針についてアドバイスを受けたり、入居状況について相談するなど協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設のマニュアルや外部での研修を基にした勉強会を実施し、身体拘束について理解を深めている。玄関は夜間のみ施錠している。	身体拘束はしないケアを実践している。外出傾向を把握し、声掛けなどで安心して落ち着くようにしている。ユニット間の行き来で気分転換が出来るように配慮している。玄関の施錠は20:30～5:30の夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一度行われる定例会において虐待について学ぶ機会を設けると共に日々の申し送りにおいて一人ひとりの身体状況を把握し、職員間で声掛けし合い、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に盛り込み、制度についての理解を深められるように研修を行なうと共に制度を活用できるように学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は入居者様やご家族様へ契約書や重要事項の内容に添って分かり易く、一方的にならない様に説明を行ない、理解と同意の上で契約して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	細かい事柄についても利用者様やご家族様の要望や意見を求めるよう努めている。施設入り口に意見箱を設け、随時の投函を可能としている	玄関入り口に意見箱を設置している。近隣の利用者が多く、家族の面会も多い。来所時に利用者の状況報告し運営に関する要望を聞いている。家族会はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる定例会を通して、意見交換や提案を聞き、話し合いを重ねて反映できるよう努めている	職員は毎月の定例会が運営に関する提案をする機会となっている。その際、各係が運営の改善について検討もしている。管理者の判断のみならず、必要があれば本部に相談する体制となっている。ゆとりある環境作りを目指しシフトを改善した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度や各研修への参加を促し、スキルアップを意識して仕事に取り組めるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社1ヶ月はわかば研修を行い、先輩職員や管理者、リーダーのアドバイスを受けている。又、必要と思われる研修においては管理者の指導のもと、参加を働きかけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への参加や外部研修を通じて、相互関係を構築しサービスの向上を図っている。社内職員の交換研修や事業所間での応援体制を作り、相互訪問の機会を設けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実態調査による聞き取りをおこない、環境の変化によるリロケーションダメージを最小限に出来るよう配慮すると共に入所後も安心して生活して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実態調査による聞き取りに於いて、ご家族様が抱える不安や要望を傾聴し、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に入居検討会を2回開催し、事前に何が困っているのかを想像し、実際入居された後にカンファレンスにて必要な支援が確実に提供できるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事出来ないことのアセスメントを行ない、入居者を介護される一方におかず、協働できる関係性を築いている。食器拭きや洗濯物たたみ、味見等できる範囲で共に活動して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要に応じ連絡を取り合い、報告連絡相談を密にして入居者様を支える関係の構築に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のコミュニティーの場として地域密着型の特性を生かし、地域の店での買い物やドライブを行ない地域との関係が途切れないよう努めている。	利用者の多くが地元のため顔馴染みの関係であり、職員も地元の方が多い。買い物は町の古くからある馴染みの店に行く。また面会に訪れやすい雰囲気作りを大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中の生活の様子を把握し、自席を含めて良好な関係を保てるように支援すると共に職員が会話の橋渡しを行い孤立しない支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退去の際にも面会に伺ったり、ご家族様の相談を受けることがあり、いつでも相談頂けるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションをしっかりと取る他、非言語的コミュニケーションによるサインにも注意している。その方の思いや不安、要望をカンファレンスや申し送りを通じて検討を行っている	利用者ごとに担当者を決め、コミュニケーションを密にとり、思いや意向を把握する。利用者が要望を出せない時は、日常生活で出来ることを基に、また家族の要望を取り入れ検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の段階において生活歴等を把握し、入居後もご家族様やご本人様の話を基にして職員への周知を行い、その方らしい生活が送れるよう検討を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態の把握に努め、毎月のカンファレンスにおいて対応方法やサービスのあり方について話し合い、サービスの質の向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は常に介護計画を把握し、定期的に関係者からの意見を聞くと共に、職員の有する情報を共有し毎月行うカンファレンスや申し送り等において検討を行い、計画を作成している。	毎月カンファレンスやモニタリングを行い、3ヶ月に1度ケアプランを見直している。また「今日の私」という支援経過を毎日作成、利用者の状況、心身、体調の状況等を記録し、ケアプランの変更の判断材料としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画された内容を実践できているかを個別の記録(今日の私)とサービス内容確認表に記入して現状把握し、変化があった際は見直しをおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の薬の調整の為専門医受診の際、本人様・ご家族様と共に日頃の体調を良く知っている職員が同行し医師に説明を行ない、薬の処方頂くなど、変化あるニーズに柔軟、且つ適切な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の有する能力を常に把握して、ご家族様の協力のもと外泊や外出の機会を設けたり、近所で行われる催し物に参加する等、楽しい暮らしが送れるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人様、ご家族様と相談し決めている。往診や受診時には、主治医に相談しながら指示やアドバイスを頂き、連携を図っている。	希望のかかりつけ医を受診し、定期受診及び精神科の通院時は職員が付き添う。家族が付添う場合は、利用者の支援経過表を作成し医師へ情報提供している。医師への質問事項も書き入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設において看護職は不在であるが、必要に応じて往診医や看護師と連絡を取り合い、適切な医療を受けられるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には面会に伺い、その時に得た情報を職員間で共有している。又、かかりつけ医にも連絡を入れ連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明書により事業所として出来ることを伝えている。ご本人様、ご家族様の意向を尊重し、その方らしい終末期が迎えられるよう、引き続き話し合っていくことを説明している。	ホーム内で看取りの実績はない。重度化した場合、医師が家族と話し合い、今後の対応を相談し計画を立てることとなっている。医師との連携は密に行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	想定されるリスクを会議などで検討し対応方法についてスタッフ間で共有し、事故予防や実践に繋げられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、昼夜を想定した避難訓練の機会を設け、避難の経路や手順の確認を行っている。近隣の協力者には、緊急連絡網に載せて、災害時の応援をお願いしている。	毎月避難訓練を実施している。近隣の協力者の連絡先を緊急連絡網に掲載し、災害発生時の応援を依頼できるようになっている。3月、9月の訓練には通報・AED・施設外への誘導の訓練を消防署の指導のもと行っている。	災害時の避難には、地域住民の協力が欠かせない。協力体制をより強めるために、避難訓練への住民の参加の働きかけを強めていくことを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の生活歴を把握しながら、個人の思いを大切にしよう心掛けています。尊厳についても大切にしています。特に排泄や入浴の際は、本人以外の周囲の方々へも配慮するよう心がけている。	家族に聞いて呼び方を決めている。基本苗字で呼んでいるが、顔見知りの方達が多く、昔からの愛称を使ったりしている。排泄介助はさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から希望を発信できる方に関しては、本人の希望を尊重し、困難な方には選択方式で質問する等自己決定出来るように働きかけてる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限りその方に合わせた生活が送れるよう、業務内容の改善やご本人様の希望をくみ取って実現できるよう努めている。その日の本人様の思いや希望を大切にし、一人ひとりの望まれる過ごし方をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に衣服の選択を一緒に行ない、着たいものを選んで頂いている。訪問理美容が来た際はカットやパーマ、カラーも楽しんで頂いている。ご家族様が時々新しく衣服を購入した際には嬉しそうに着用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日の際にご本人様の嗜好物をとり入れたり、行事の際に季節に合わせたメニューを取り入れている。下膳や食器洗い、味見等を一緒に行なって頂いている。	会社の栄養士が献立を作成し、3ヶ月ごとに個々の栄養指導書を作成している。献立表を基に当番職員が調理し提供している。利用者も自分でできることを役割として手伝っている。誕生会は職員の手作りケーキを提供し楽しくお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立を基に食事を提供している。食事量や水分量は記録し、摂取量の少ない方にはお茶ゼリーを提供する等水分摂取に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、不十分と思われる方への支援を行うと共に、毎日夜間帯に義歯洗浄剤を用いて保清に努めている。強い拒否のある方については数回に分けて促し、できるだけ実施するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表に記入し排泄間隔を把握すると共に、本人様に合った排泄方法を検討し、残存機能を活かした支援を行なっている。	日中は声掛けしトイレ誘導を行っている。毎日排泄の記録をし、排尿の多い人は記録を確認しながら夜間起こし排泄の誘導をするなど配慮している。本人に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養士の献立を基に食事を提供している。乳製品や果物等を提供したり、散歩などの適度な運動を心掛け、便秘予防に努めている。主治医に相談し下剤を処方して頂くこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	今までの生活習慣や清潔状況を検討し、ケアプランに添って入浴して頂いている。又、入浴剤を使用して香り良く楽しく入浴して頂いている。冬至のゆず湯なども楽しまれている。	毎日の入浴希望にも応じるよう努めている(10:00～14:00)。食後を避け、希望の時間に対応し、湯はその都度入れ替える。季節に合わせた入浴剤を使用している。入浴したくない人にはスタッフを変えたり、時間を変えたりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の希望や状況によっては、主に昼食後に休んで頂いている。夜間の不眠も見られていない。温度・湿度・照明に注意し、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された際に、使用目的や副作用等起こりうるリスクの周知を行うと共に、薬の変更があった際は申し送り時や連絡ノートへ記入し、再確認し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物たたみ等本人の負担にならない様に、出来ることに応じて役割を持って頂いている。行事や誕生会を企画したり、ボランティアの方々の協力を頂き、踊りや歌を楽しんで頂く機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉ドライブ等、定期的にドライブの機会を設けている。日頃は近くの海に散歩したり、買い物に出かけたりしている。ご家族様にご協力を頂きながら、墓参りをしたり外泊される方もいる。	外出したい希望に合わせて、墓参り、自宅、買い物など、個別に対応している。毎月、花見、アジサイ見学、紅葉狩などの外出計画がある。外食は車いすの対応ができる店を選んでいくようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等の危険性をご家族様やご本人様に理解を頂いた上でお預りし、外食ドライブや買い物など必要な際にはお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持し、好きな時にご家族様と通話されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には行事の写真や皆で作った作品などを展示し、振り返り会話に繋げるようにしている。天気の良い日はウッドデッキに出て、日光浴や菜園を眺め、穏やかに過ごされている。又、温度・湿度計を確認しながら、居心地の良い環境作りに努めている。	毎朝換気し、温・湿度の管理を行っている。日差しの強い日はカーテンを閉めるなど調整している。庭でとれた柿を軒先につるし季節を感じてもらうなど、季節ごとの食材を収穫し楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを2か所設置し、テレビを見たり、ゆったり過ごされている。又、落ち着いた小上がりの畳の部屋もあり、思い思いの過ごし方ができる環境となっている。隣のユニットに時々訪問し、一緒に過ごし会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物や家族の写真を飾り、居心地良く過ごせるよう配慮している。テレビを持ち込み居室で自分なりに過ごされている方もいる。	本人の馴染みの筆筒や鏡台を持ち込んでいる。本人が収納しやすいように筆筒にはラベルを張るなど工夫している。また自分で作った作品や写真を貼っていることでその時を思い出し話題にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置して、歩行できる方は安全に自立して移動できるようにしている。トイレにはその場所が分かりやすいように看板を掲げている。		